

平成28年度第2回稲沢市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成29年3月16日(木) 午後2時～3時27分

2. 場 所 稲沢市役所 3階 議員総会室

3. 出席者

市 長 加藤 錠司郎

教 育 長 恒川 武久

教 育 委 員 青 井 博 藤 田 美知子

中 寫 克 佳 野 村 春 子

内 藤 晶 仁

教 育 部 長 遠 藤 秀 樹 教 育 部 調 整 監 服 部 清 久

部 次 長 兼 庶 務 課 長 岩 田 勝 宏 庶 務 課 主 幹 長 谷 川 隆

学 校 教 育 課 長 兼 指 導 主 事 武 田 孝 薫 学 校 教 育 課 統 括 主 幹 兼 指 導 主 事 服 部 高 志

生 涯 学 習 課 長 内 藤 幸 蔵 ス ポ ー ツ 課 長 杉 山 順 三

図 書 館 長 加 藤 定 雄 美 術 館 長 山 田 美 佐 子

書 記 庶 務 課 西 村 純

4. 傍聴人の数 9人

5. 協議・調整事項

(1) 「子育て・教育は稲沢で！」について

(2) スポーツ振興について

(3) 教育施策(平成29年度予算案)について

(4) その他

6. その他

－ 開 会 －

● 教育部長

それでは、平成28年度第2回稲沢市総合教育会議を開会します。はじめに、加藤市長からごあいさつをいただきます。

(市長あいさつの後)

● 教育部長

本会議は、稲沢市総合教育会議設置要綱第5条において市長が議長となっておりますので、以下の取り回しについては、加藤市長にお願いいたします。

◎ 市長

それでは、2. 協議・調整事項に入ります。「(1)『子育て・教育は稲沢で!』について」、私の教育に関する考え方のお話をさせていただきたいと思います。

選挙戦、その他を通じて、私が申し上げてきたことをごさいますけれども、子育て、教育施策に力を入れていこうということでいろいろなことを申し上げてまいりました。

一つは子育て支援で、第二子、2番目の子どもさんの保育料、それから幼稚園の授業料を段階的に無償化していきたいというお話をさせていただいております。このことにつきましては、今、市議会でご審議をいただいておりますけれども、平成29年度から、市民税の所得割が57,700円未満のご家庭、世帯年収がおよそ400万円と言われておりますが、これ以下の方については、義務教育中学校3年生の子どもさんから数えて2人目のお子さんが保育園、幼稚園に在籍の場合、その保育料、授業料を無償化しようということで進めてまいります。また、保育の需要が急増しております下津地区におきまして、下津保育園に2歳児の保育をする場所を建物の中に1教室増室を進めておりますし、第2児童クラブの設置も旧下津市民センター跡地に進めようということでやっております。

また、教育では、小中学校の普通教室にエアコンの設置を訴えてまいりましたが、平成29年度予算でまず、中学校が稲沢市内には9校ございますが、すでに平和中学校にはエアコンが設置してありますので、残りの8校についての設計費用を平成29年度の予算にあげております。そして、小学校23校につきましては、私の任期中の平成32年度までに、財源としては合併特例債をなんとか利用して設置を進めていきたいと考えております。

所得の低い方または一人親家庭などの教育支援といたしまして、今、市の文化センターで行っておりますブリッジルームというものを平和のらくらくプラザにも拡大をして、今まで定員15名でございましたが、もう15名拡大をして30名にしようと計画しております。

そして、まだこれは明確にはなっておりませんが、教育に対する市民参加、学校の企画運営に市民が参加できるような方策をとっていきたいということで選挙戦を通じて訴えてまいりましたが、そういう方向で進めていきたいと考え

ております。

まだまだいろいろございますけれども、私からは「子育て・教育は稲沢で！」ということで、一つは少子化が進んでおります。出生率が愛知県平均よりも稲沢は少し低い状況にあります。この出生率向上を、子育て支援策をすることによってなんとか実現していきたい。そして、人口社会増という点では、他の市町から稲沢市に住んでみようと思う方を増やすために今のような施策を実行することによって、稲沢へ流入人口を増加させたいという気持ちで取組む覚悟でございますので、教育委員の皆さま方にもご理解をいただきたいと思っております。

今述べたことにつきまして、委員の皆さまからご意見ありましたらお伺いしたいと思っております。

○委員

私の家庭では子育ての最中で、上が中1、下が小4、子育てを稲沢でずっと続けてまいりました。その中で、妻ともいろいろ話を家庭段階で相談をしながら、どう育てていこうか、どういうところへお願いをしに行こうか、どういうところへ相談に行こうかなど、いろいろやってきた過程はございます。

実際に子育てがしにくいかしにくくないか、しやすい町なのか正直に申し上げますと、しにくいことは全然ないです。特別何かすごくしやすいというわけでもないという当たり障りのない実感になってしまっていますが、他のご家庭にお聞きすると、同じような答えになるかと思っております。半分くらいの方が稲沢で子育てのことで特に苦もなく、まずまず育てやすい環境であると私は思っています。それがひとえに地域における子育て支援で、行政の話で多く開かれている支援、施設はございますけど、それとはまた別に、個別でNPOさんも含めて、具体的にいうとぴよぴよさんとか、活動されている方々が結構たくさんお見えになります。我々もそういったところを活用させていただきながら子育てをしてきた実感がございます。

ここから先、稲沢が子どもを育てやすい町に、現在育てられているご両親が大抵言われることは、相談事をどこにどう相談しに行けばいいのかというような悩みをよく聞いております。我々も実際に夜、困ったことが起きたときにはどうしたらいいのか、近くに祖父母がいない場合、頼れる人は一体誰なのかというところが実は心配でした。そういったところを踏まえたくらうえで、悩みをどうやって解決していくか、育てやすい場所をどう提供していくか、医者に関して24時間体制のファミリーサポートセンターについては十分我々も認知はしていますが、まだ知られていない部分もたくさんあるのではないかと感じております。そういったところの活用や周知も今後進めていく必要があるのではな

いかと思っております。

最終的に稲沢の子どもをどう他の市町村の方々に知っていただくかになりますが、私が個人的に言うのはおかしな話かもしれませんが、稲沢っ子というブランド化みたいなもの、稲沢に行けばいい子育てができる、いい教育をさせてもらえるのではないかとというブランドをどうやって作り上げていくのかを、これから市長さんも一緒に、皆さんと一緒にやっていかななくてはならないことだと私は思います。

◎市長

稲沢の子どものブランド化というような話もございました。取り立てて子育てしにくいわけではないけど、かと言って取り立ててしやすいということも言えないだろうと。また子育ての相談体制の一元化のご提案をいただきましたが、私も感じるものがたくさんございました。

○委員

「子育て・教育は稲沢で！」ということで、難しい問題がいろいろあるかと思えます。市長さんがおっしゃられたような第二子からの教育の無料化など、そういったこともとてもいいことだと思います。

例えば、稲沢を出ていった方が戻ってきたいような稲沢、先程も稲沢っ子というブランドというものが出ましたが、稲沢に戻って生活したいと思う方たちを増やして、稲沢に戻りたいというものを作っていかななくてはならないと思います。

その中で、稲沢はふるさとの魅力がたくさんあると思います。郷土愛を育むための伝統行事やお祭りに取り組んでいる学校もたくさんありますし、そういったことをこれからも続けていき、そしてもっと多くの人に稲沢の良さ、例えば稲沢にはこんなに活躍している人がいて、そういう方たちに協力をしていただいて稲沢を知ってもらおうということも大事だと感じました。荻須高德さんやオリンピックのレスリングで登坂選手、あと最近テレビによく出ているミュージカルの新妻聖子さんは私も稲沢出身とは知らなくて、こんなに活躍している方がいらっしゃるのかと思いましたし、津軽三味線で頑張ってみえる稲沢出身の方たちもいます。そのような方たちをどんどん発掘して、稲沢の学校や教育、いろいろな場に来ていただいて活躍してもらおう姿を見せるということも大事だと思います。あと、豊田合成がバレーボールでとても活躍しておりまして、豊田合成さんにも、科学的な理科的なことは協力していただいているといった話は聞いております。例えば、中学校に来てバレーボールの指導をしていただくことで励みになったりするのではないかと思います。

◎市長

稲沢出身のトップアスリートの方をなんとか子どもの前で公表するような事業と、それから稲沢出身の文化芸術方面で有名な方をなんとかという話だと思えます。大切なことだと思えますので、なんとか実現を少しずつでもしてきたいと考えておりますのでよろしくお願ひします。

○委員

私は小さい子どもを診ておひまして、映画や絵本などに触れさせるよりも現物を見せたほうがずっと興味が違ってくる。稲沢は鉄道の町ですので、3～4歳の子が、あれは赤い電車、黄色い電車と言っています。アンパンマンのようなものが好きかと思うと、現物のパトカーを見に行こう、今日はパトカーいないとか、また食べ物に対しては畑や田んぼを見えています。今の世の中、小さい子は自然のもの、実物を直に見るというチャンスが少ないです。その割には、稲沢にはたくさんそういう環境があるので、そういうのをアピールして学校も自然に触れ合う学校というイメージ作りをすれば、稲沢で教育したいと思ひ方が出てくるのではないかと内心思ひておひます。稲沢は非常に自然が多いので、それを取り込んで教育をすることはとても大事なことはないかと思ひます。

◎市長

自然が多く、田んぼや畑で植物が成長していく実物を見せたらどうか、また車や機関車も実はここら辺にありますので、そういったものを見せるような機会を作ったらどうかというご意見かと思ひます。大変よく分かる意見で、学校でも畑をお借りして作物を育てるような教育もしておひますけれども、また先生のご意見も活かしていきたくと思ひます。

○委員

まず、市長さんの教育への関心の強さが最初のお話でよく分かりまして、大変心強く思ひておひます。現場に身をおいた者として、教育行政からのいろいろな支援がなければ学校現場は成り立っていきません。そのためには、やはりここでの話題がやがて現場に活かされていくような会議になったらと思ひます。

お話をお聞きして思ひたことは、現在、稲沢市の進めている教育の実際が、なかなか現場から周辺の市民の皆さんへの広がりというのは少ないと思ひます。ここ数年、稲沢市で特化して行っていることで、低学年の子たちを6時間目まで残していろいろな活動をさせながら意欲付けをさせたい、あるいは地域の方々のご支援をいただひてその地域ならではのおじいちゃんおばあちゃんの昔のお話や教えていただひてことを続けていったり、英語が平成30年度から話題

になっていますが、それに特化して特別に地域で英語に富んだ方においでいただいてご指導いただくなど、すでに各学校で全体ではありませんが取り組んでみえます。そういう事実、稲沢市やっていますという広報的などところで広める機会があるといいと思います。

◎市長

教育長お得意の分野ですけれども、多様な学習活動支援授業という学校で低学年の子どもたちを6限目まで学校において、そのことに稲沢市が予算をつけているのは事実ですが、まだPRがしっかりできていないというのはあるかもしれません。おっしゃるとおりかと思しますので、そのことにもこれから注意してなんとかPRに向けていきたいと考えております。

○委員

初参加でございまして大変緊張しております。先程から何度もお話に出ておりますが、世帯年収400万円以下で保育園第二子から無償化、大変ありがたいことだろうと思えますし、もっともっと進めていただけるとよいと思えます。

私は二世帯住宅に住んでおりまして、今度小学校に1番上の孫が入ります。そして、第二子は年少として大里西保育園に預かっていただきます。ただ、3人目の0歳児が家におりますので、母親がなかなか働けないということで保育園に申込みましたが、そのときになかなかいい返事がすぐに出ませんでしたので少しヤキモキしておりましたけど、なんとか預かっていただけることになりました。4月から働けると言っておりました。先程、稲沢に戻ってきて子育てできる環境をという話もありましたけど、そういった状態をさらに作っていただけると母親も働けてさらによいと思えました。ぜひそういったところを力強く進めていっていただきたいと思えます。

◎市長

保育や幼児教育の人数、3歳から5歳までの通常の保育にかかる方々の人数というのは、実のところ稲沢市内で減少しておりますけれども、0～2歳で非常に増えておりまして、下津地区の児童は全体として増えているというのが今の実状です。おっしゃるとおり、0歳から子どもを預けて働くことができれば昨今の労働力不足の解消になりますし、母親方が働いて所得を得られれば国内の消費の活性化にもつながると私は考えておりますので、そういうことも進めていきたいと思えます。

この点に関しては、このくらいにさせていただきたいと思えますが、何かご意見のある方、ありましたらお伺いします。よろしいでしょうか。それでは次に、「(2) スポーツ振興について」、事務局から説明をお願いします。

●学校教育課長

(別添の資料により説明)

◎市長

ただいま事務局から説明がありました。実は、私は子どもの頃から体が弱くてほとんどスポーツをせずにここまできてしまって、先程話にも出てきましたが私も子どもの頃は実はスキップができなかったです。それくらい運動神経ゼロといつも言っておりますが、なんとか健康に育ってここまではきました。今、生涯に渡ってスポーツライフを実現するための資質や能力ということを言われました。そういうところに欠けているのではと思い反省をしております。

このことについては、委員が非常に危機感を持ってみえるというお話でございますので、一言お話をいただくと幸いです。

○委員

私は市長さんとは反対で、子どもの頃から駆けずり回って外で遊びまくっていたという、男の子のように活発に動いていました。今例えば何か新しいことをやろうとしたときに、基本的なことが体にしみついていると思いますので、そこからいろいろなことに挑戦してみようとかやってみようという気持ちになります。

今、学校教育課の方から説明がありましたが、確かにいろいろなことに取り組んでいるし、そのとおりだと思います。その中で体力低下はなぜだろうと思いますけど、昔はマラソン大会があり、体力の差があり速い子も遅い子もいましたがそれでも実施をしていました。現在お聞きすると実施をしている学校もあるようですが、そういったものが減ってきている。子どもの健康や体力の違いなど、いろいろな関係があって実施をしていないような学校も多いのではないかと思います。そういった日常の中からやはり体力はつくのではないかと思います。

どうしたら運動を好きになれるだろうか、上手になれるだろうか、これは自分の体を実際に動かす、日常生活の中から、普段の家庭の生活の中から起こってくるもので、どうして外で遊ばなくなってしまったのか、働く母親父親がいて遊び相手がない、塾に行っていないということで原因は皆さんご存じだと思いますが、そういったことを解消していくために学校の体育の授業はとても大事だと思います。家庭ではなかなかできない子も、スポ少に行っている子や自分でクラブ活動している子はいいいですが、そうじゃない子、そういうことができない子たちは、学校で基礎体力、基礎の知識を学ぶという場だと思いますので、やはり学校の体育の授業がとても大事だと思います。若い先生の中でも

体育の苦手な先生もお見えになると思いますので、今おっしゃったようにフォローしながら学校で取り組んでみえるという話も聞きました。そういったことがこれから必要になるかと思しますので、やはり学校の体育の授業は大事だと思います。

それと、中学校の部活動の話も先程出ましたが、中日新聞を見ていましたら豊橋の中学校が朝練を禁止するという記事がありました。朝練は親御さんも朝早くで大変だし、先生の負担を軽減するというメリットがあり、近辺でも北名古屋市や小牧市でもずっと朝練はやっていないということを今回知りました。朝練は稲沢市としてはまだやっていると思いますが、これからどうしていくのかまた検討していただけたらと思います。

また、部活動の外部指導も気になるころではあります。部活動は教員の先生の長時間労働を是正するために、外部指導員を招いて部活動をしている学校もたくさんあると思います。稲沢市にもそういったところもあるかと思いますがどんどん増やして、また、指導員の質も向上していかななくてはならないだろうと思います。

◎市長

今のお話の中で、一つは、体育の授業の中でやるのが大切なのではないかという話がありました。もう一つ、教員の多忙化解消ということで朝練を4月からやめようという市もあるということに対する委員からの危惧がありました。学校教育課長、その辺についてはどうお考えでしょうか。

●学校教育課長

学校における身体活動、体力の基礎を作るのは体育の授業であると考えております。先程もお話をさせていただきましたが、そのためには、教員の体育授業の指導力を上げていくということが一つ重要なことであると思いますので、教育委員会としても学校と連携を取りながら進めてまいりたいと考えております。

体育の授業では、生涯にわたって運動を続ける、生涯スポーツにつながる基礎を作っていきたいというところがございます。運動嫌いを体育の授業で作ってしまえばいけませんので、運動することが好き、体を動かしたい、子どもたちには常にそういう欲求がありますので、その欲求をうまく活かしながら生涯に渡ってスポーツを続けていこうという気持ちと体づくりに努めてまいりたいと思います。

それから中学校の部活動のことをお話いただきました。教育委員会においても、来年度に向けて教員の多忙化解消についての施策、方針を出していく必要

がありますので、中学校の部活動のあり方も含めて検討してまいりたいと考えております。実際に各学校において、部活動の休養日を設定しながら現在も進めているところではございますが、稲沢市全体としてどのように部活動をこれからやっていくのかということも、改めて学校現場、また生徒、保護者の皆さま方の声もお聞きしながら検討して方針、方策を作り上げていきたいと考えております。

○委員

先程も学校教育課長さんがおっしゃられた、やる子とやらない子の差が二極化しているということも、私も非常に強く懸念しております。私の子どもは2人とも、幼少期の頃にスイミングや体操など少しはやっていましたが長続きはしなかったです。その後、何か継続的にスポーツをやっているかと言われると、やっていないというところが正直なところです。

ただ、私が小さい頃、小学生の頃を振り返ると、学校から帰ってきた瞬間にまた学校に戻って地域の友達と、上級生下級生一緒になってサッカーやソフトボールをやった記憶がございます。先程の話の中で、体力低下の原因の一つに、幼少期の家庭環境のお話があると思います。その家庭環境が昔に比べて激変しているというのは事実ではあるかと思えます。その中でスポーツをやることの意義について、親のほうからも実はそういう話を子どもに対して私もあまりしていないのが実態です。私自身、スポーツをガンガンやっているかと言われたら、私がやっているのはゴルフという偏ったスポーツでございますので、全体バランスからするといまいちだと思えますが、それなりに運動ということで歩くのと、週1回筋力トレーニングを含めてやっているという姿を見せており、健康でいたって順調に生活ができているという話はしております。

スポーツをやるということでは、危ないものを自分でうまく体を反応させて危険を回避する能力というのは、人間にとって必ず必要だと思います。それが最低レベル、人間が生活の質の向上をするにあたって必要な能力だと私も思いますので、学校体育の中でスポーツを推奨するということになると、どうしても教員の方に負担がかかってしまいます。昔やっていたスポーツテストや、今ではなくなってしまった地域の子ども会でのソフトボール大会というのもできるようなになれば、そういった機会が増えて子どもたちがスポーツに携わる機会が増えるのではないかと思います。

◎市長

運動の二極化ということを言われましたが、実は13時から愛知啓成高校のテニス部の方が全国選抜大会に出場するというので市役所にお見えになりま

した。話を聞きましたら、やはり7人の選手の方全てが小学生のときからクラブに入って練習をしてみえるとのことでした。そういった方とそうでない方の二極化というのが、体力や運動能力に大きな差が出てくる原因ではないかと私も考えているところでございます。

○委員

診察していると体が極端で、昔は肥満児がいましたが、最近は検診していませんと肥満児はいないです。どちらかという痩せがいます。なので、食生活が変わってきたのではないかと思います。

運動選手の体格と一般の生徒との差があまりに極端で、裸になる前から分かります。二極化はなるほどだと思います。自分が検診してみても、こんなに差があるのかという記憶があります。小さいときからクラブでそればかりやっていたのと、そういうのではなくて家庭の中で動かずに生活してきたというのは、小学校の高学年から体が違ってきます。そういう意味で、学校での体育の時間というのは大事だという思いはあります。

◎市長

学校の現場で健診される立場からのご意見でございました。

○委員

私は商売をやっていますので子どもの面倒がなかなかみれない、子どもと一緒に過ごす時間が少ない状況でしたが、子どもたちは何に興味を持っているのだろうと話をしながらスポーツ少年団に子どもを預けました。小学校の間はずっと野球に励んで、真っ黒になるほどになっている子を迎えに行った覚えがございます。野球を通じて指導者の方から、また同い年の子から学ぶことは大変大きかったらと思いますけど、そのとき親として感じたのは、親への負担がとても大きかったことです。仕事を休むわけにはいかない、店を閉めるわけにはいかない、でも他の親御さんがやってみえることを同じようにやらなくてはならないと、とてもとても大変でした。でも今思うと、個人的な話ですけど、三男はぜひ甲子園を目指したいと言って県外に出ていきましたし、次男は学校の先生になりたいと言って、今小学校の教員をやりながら体育の先生をやっております。やはり子どもの頃から自分自身で学んだことが、ゆくゆくこうしてつながってくるということはとても大事なことだと思います。ただ、親の負担も考えると大変で、そうなる運動するということを目的とするならば、体育の授業がとても大事であって、個人的に何かを学ぶということは難しいことであるが故に体育の授業を充実していただけるとよいと感じました。

◎市長

私のところも商売をやっておりましたので、土日、私と家内の2人で商売を営んでおりました。実は私の子どもは一人もスポーツ少年団をやっていませんでしたが、今はスポーツをやっていますので、そればかりでないと思います。

○委員

小学校に勤めていたときに、よく子どもたちに廊下を走らないようにという目標を年間に1回か2回していたと思います。子どもは本来ほかっておけば走り回るものです。逆に言えば、子どもたちが走り回れる環境を学校の中に、室内では危険ですので運動場などに作っていくといいと思います。私だけの考えかもしれませんが、私が勤めていたときから退職するときまで見ていますと、学校の遊具がだんだん減ってきているという印象を持ちます。子どもたちが外に出て遊びたいと思わせるようなものを学校の運動場にいい感じで配置をしていくと効果が出てくるのではないかと思います。もちろん安全面の配慮は当然大事ではありますが、例えば登り棒というのは壊れると新しく作ってもらえないです。そういうのもやりたい子もいるだろうし、あるいは低学年の子であればジャングルジムも、大分年数がきますと土台から駄目になり建替えにととてもお金が掛かるということでだんだん撤去となっていきます。学校の予算のところではなかなか難しいところもあるかと思いますが、施設面で子どもが走れる環境を運動場にお願いできたらと思います。

◎市長

遊具での事故などありまして老朽化してくると撤去という感じになってきていると思いますが、学校教育課長、本来の遊具に関して数や点検その他安全性も含めてどうでしょうか。

●学校教育課長

小学校の遊具ということで考えていきますと、委員がおっしゃられたように、どうしても老朽化してきたものがあります。各小学校の遊具を見ても、設置をされてから20年、30年経っています。専門業者によって遊具の安全点検を行っておりますので、必要に応じて補修をしながら進めているところがあります。ただ、過去において、動く遊具による事故がかなり起きたという事実がございます。各小学校においては、動く遊具については安全面を考えながら撤去をしていった経緯があるのではないかと思います。自分が子どもの頃には動かせる回る遊具だとかいろいろなものがあって、それを一番子ども心には楽しみに遊んでいたというのがありますが、安全面を考えたときに学校では子どもたちに事故や怪我をさせてしまっただけではいくらいいことをしても何にもなりませんので、そのところを考えていくと、遊具の種類、補修等についてはま

た庶務課とも相談をさせていただきながら考えてまいります。固定遊具についてもいろいろな遊び方がありますので、それを子どもたちに伝えていき、そして子どもたちが自分たちで遊びを考え出していくことも重要だと思いますので、そのようなこともまた進めていきたいと考えております。

◎市長

委員から貴重な意見が出ましたので、今後、特に小学校における校庭の遊具の設置についても一度お考えいただければと私も思っています。

○委員

スポーツ振興についてということで一つ提言といいますか、今私たちは生涯スポーツということで、スポーツをしている年齢層が随分高齢化してきています。しかし、高齢化している方たちはとても元気にスポーツをしています。いろいろなスポーツで見受けられます。やはり仲間作りや体力維持といった意味でどんどん充実してきているのではないかと思います。

ただ、子どもたちの体力とかいろいろな事がありますが、もう少しこれからは幼児、小さい頃からなかなか家庭で運動する場所がないとか環境的に運動するところが少なくなっている現状の中で、幼児や小学校にあがる前の子たちにもそういった体力を、スポーツ課さんでいろいろな教室を開いているのは伺っております。この間もTGアリーナ(稲沢市総合体育館)でミニバスケットを本当に小さな幼稚園の子たちが4人でしたが指導者が3人いました。私は隣で卓球をしていましたが、とても楽しそうにしている姿を見て、こうやって楽しく体を動かしているのを見て、これからは小さい子たちにもスポーツを、スポーツと言うと大袈裟なので遊びの中からスポーツを楽しめるような機会を作っていくために、スポーツ推進委員の方たちの協力や総合型スポーツクラブの協力で少しずつ充実をして幅を広げていっていただけると、これから長い生涯スポーツにつながっていくのではないかと感じました。

◎市長

県のいきいきあいちスポーツプランの中にも、資料8ページの中に総合型クラブの育成支援というものがございます。今後、教員の多忙化解消その他で部活動にある程度の時間が割けないということになってくると、地域での総合型クラブの育成支援が必要だと考えておりますが、なかなか全ての地域に平等に行うのは難しいような状況ではないかと私は思っております。

先程、元気な高齢の方というお話がありましたが、65歳以上の方で地域の子どもたちを指導していただけるような方がたくさんみえれば、こういった総合型スポーツクラブをぜひとも進めていきたいと思っておりますのでよろしく

お願いします。

スポーツ振興については、これくらいにさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

○委員

私も今の高齢者の件でずっとスポーツジムに行っておりますが、祖父江の森のプールで、今度4月8日にNHKのジュニア水泳教室が開かれまして、いろいろなところに働きかけをしてみえて非常に素晴らしいと思いました。宮下純一さんという銅メダリストの方がお見えになるということで、いろいろなところへのご手配、本当にありがたいと思います。

○教育長

全国的な傾向で、体力の低下、スポーツ人口の二極化等、私自身も深刻な問題であると捉えています。昭和60年代の頃から20年間体力の低下がずっと続いていて、ようやく横ばいになってきた状況です。いろいろ考えさせていただく中で、体力低下の原因がどこにあるかがきちんと示されていないのが大きな原因ではないかと思います。学力だどこに問題があるというのが明らかになります。先程から体育の授業の充実ということで、学校体育への期待がかかっているのはありがたいことでもあるし、責任が重いとも思いながら、学校の体育は体育の時間、いろいろな活動の間の放課もですが、体力作りを担っているところではありますけど、本当は子どもの生活時間は家庭にもたくさんあります。なんとか家庭への働きかけを、先程の地域の教育参加ではありませんけど、そういうことも含めて学校から発信していく形をより進めていかないと、どれだけ効果があるか分かりませんが体力の低下、全てが学校体育の問題であると捉えられてしまうと、学校への負担が大き過ぎるのではないかと思います。期待は期待として受け止めさせていただく中で、現場があまりにも負担にならないように、ただ全力を尽くさせていただくことは、改めて自分自身も誓っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

◎市長

幼少期から自分の命を守るような敏捷性や瞬発力、柔軟性は本来家庭の教育やしつけの中でやっていくべきことだということは事実だと思います。一方で、先程、0歳から保育という話もありまして、なかなかその両立をするのは難しいことだという感じを受けております。親御さんが家庭にいる間には、そういったしつけ、教育をしていただければと私も感じるところでございます。この2番目の協議事項についてはよろしいでしょうか。先程のNHKのことについては、しっかりとPRをして多くの方に参加していただけるようにと、

お話があったときに積極的に受けさせてもらうようにと私も話をしたところでございます。

それでは、「(3) 教育施策(平成29年度予算案)について」、事務局から説明をお願いします。

●事務局

(別添の資料により順次説明)

◎市長

ただいま事務局から説明がありました。ご意見がありましたらお願いします。

○委員

いろいろなところで予算をいただいてありがとうございます。特に内容をもう少しお伺いしたかったのが、教育振興対策事業費の校務支援システムというのはソフトの開発でしょうか。

●学校教育課長

こちらのシステムにつきましては、校務支援システムを開発している業者に依頼をしまして、そちらのものを採用させていただいております。現場で活用しやすいようにこちらからも要望をさせていただきながら、できる範囲内において稲沢市の学校に対応した形で改良していただいているところが若干ございます。

○委員

同じく教育振興対策事業費の中のシステムの件ですが、導入されたのは今年からですか。それとも以前にもございましたでしょうか。

●学校教育課長

平成28年10月から運用を開始しました。夏休みを中心に各学校のパソコンに導入させていただいておりますので、設置工事をさせていただいて10月から本格的に導入を開始したということでございます。

○委員

導入されてからまだ半年くらいということではありますが、これを導入されたことによって現場の作業効率や負担軽減に関してどれくらいの効果がありそうか感じたところはございますか。

●学校教育課長

この機能の中の一つに掲示板というものがございます。先生たちは一台一台ノートパソコンを使っておりますので、その掲示板に連絡事項などを記載しておけば、誰もが同じものを見られます。それを活用することによってまずペーパーレス、それから打ち合わせの時間を極力短くすることができるようになって

たということがございます。また、これからの検証になりますが、各学校同じものを同じ機能、同じ操作でできるようになりましたので、これまでは各個人が作ったプログラムで成績処理、名簿管理を行っており、学校ごとにバラバラでした。それが同じ操作でできるようになりましたので、学校が変わってもやり方が違うということが少なくなりましたので、混乱が減るだろうと捉えております。また、学校間でのやり取りもよりスムーズにできるようになってくるだろうと捉えております。

○委員

ぜひ積極的に活用していただいて、情報を一元化されているということになると思いますので、それを有効に活用して今後いろいろな支援のほうへつなげていていただきたいと思います。

○委員

心の教室相談員配置事業ということで今回予算をいただけたということですが、今までもこういった支援員さんを増やしていただいているいろいろなケアをされてきていると思います。不登校やいじめなどいろいろな問題がたくさんある中で、こういった予算をつけていただいて中学校へ2名配置していただけることで、これから細かなそれぞれ個々に合ったケアをしていただけるのではないかと期待をしております。有効にこの予算の活用をしていただけたらと思います。

◎市長

この内容についてももう少し細かく説明していただいてもいいですか。

●学校教育課長

心の教室相談員を来年度から中学校2校、祖父江中学校と明治中学校に設置の予定でございます。稲沢市の学校教育課の臨時職員という形で対応させていただきます。常勤という形での配置はなかなか難しいところではございますので、週2日、3日辺りのところで子どもたちの様子を見ていただいたり、例えば放課のときにここにちゃんといるよ、相談したいときはいつでも誰でもおいでということで進めてまいりたいと学校とも打ち合わせをさせていただきました。また、日常的に教室の中に入っていただいて子どもたちの様子を見ていただき、その中でいつもと違うというところも教師としての目ではなく違う目で捉えていただけるのではないかと考えております。先生方やスクールカウンセラーとうまく連携を取りながらいい形で情報を共有しつつ、できるだけ子どもたちの心の悩みや不安に寄り添って解消できるように、少しでも軽減できるように取組みを進めてまいりたいと思います。

◎市長

私のほうからも庁議その他を通じて、子どもたちの小さな変化も見逃すことなく、不登校やいじめにつながるようなことを発見してくださいといつも申し上げているところでございます。この2名の配置によって、少しでもそういったことの拡大、増加を防げないかと思っておりますのでご理解いただきたいと思えます。

協議事項の(3)までをここで終了させていただきたいと思えます。「(4)その他」でございますが、委員の皆さまから何かございますでしょうか。

○委員

これは今すぐという話ではありませんが、二学期制の学校がこの西尾張地区でも増えているということで、私たちは三学期制ということで馴染んでいますが、二学期制で学期を編成している学校は結構増えてきていて近隣の市町村にもあるという話を聞きました。

実は私の子どもが川崎におり、孫が今度小学校2年生でして、そちらの学校が二学期制の学校ということで里帰りしたときにその話を聞きました。メリットとデメリットを聞いたら、メリットは通知表の作成が1回減って2回になることで先生の負担が少し減るのではないかと、また負担が減った分、授業に手間を掛けておもしろくしてくれるということも聞きました。デメリットと申しますか、自分が三学期制できたものですから、夏休み、春休み、冬休みといった区切りに通知表をもらうとけじめみたいなものができてメリハリがあるというのを聞いたりしました。

いろいろな検討材料がまだあるとは思いますが、稲沢市としては、こういったことについてどのように考えているのでしょうか。

○教育長

近隣でそれほど増えているわけではなく、かえって減っているくらいで多分全国的にも減っていると思えます。一時、二学期制がすごくもてはやされた時代があり、そのときは授業時間数の確保ということが中心で入ってきました。私自身の考え方を言えば、二学期制であっても1学期の終わりに成績あるいは学習成果を保護者に知らせるなど、それなりのものを出していろいろやって、先生方の負担がそんなには軽くなったとは思えませんし、親御さんにとっても1学期間でどれだけやったのか、どれだけできてどこができないのかということを知らせてほしいという思いもありますので、それに答えるためにも三学期制がいいと思っております。三学期制というのは日本の国の学校の制度からいくと一番合っていると思えますし、いろいろな体験、例えば夏休みにおける体

験についてもこの時期になったらこのように休みが取れ、ということでいいと思います。時間をどう生み出すかを学校現場で一所懸命やっていますので、特に二学期制にもっていかなくてはいけないとの認識はしていません。ただ、いろいろな意味で情報を取り入れさせていただく中でその都度研究させていただきますが、現時点では二学期制ということは考えておりません。

◎市長

学校の二学期制については、今のような意見だということでございます。他の委員さんから何かご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、3. その他で事務局から何かございますか。

●庶務課長

総合教育会議につきましては、今年度8月と本日の2回開催させていただきました。来年度につきましても2回程度の開催を予定させていただいておりますので、お忙しい中恐縮でございますが、またよろしくお願ひします。

◎市長

次はおおよそ8月くらいということでよろしいでしょうか。

●庶務課長

はい。

◎市長

それ以外に何か事務局からございますか。特別その他ないようでございますしたら、これをもちまして第2回稲沢市総合教育会議を終わります。お疲れ様でございました。

— 閉 会 —